

答 辞

例年がない暖かい冬を経て、早くから春が訪れ、あちらこちらから花の便りが聞かれる今日ここに、私たちのために、このように盛大な卒業証書授与式を挙行していただき、卒業生一同心より感謝申し上げます。

職藝学院で学んだ歲月はとても充実し、あつという間の二年間でした。

最初の難関は入学当初の刃物研ぎ実習で、その様子が今も鮮明に思い起こされます。なかなか上手く研ぎ上がらず、永遠に終わらないのではと、不安にかられたのは私だけではなかったと思います。

それが今では、自らの力を確認しつつ、卒業製作をやり遂げることができるところまでになりました。そして、実物実習を通し、手仕事の充実感と、ものづくりの喜びも味わうことができるまでに成長致しました。

このような満足感の中で、この卒業の日を迎えられることができるのは、素晴らしい学びの環境を作って下さった理事長、学院長を始め、諸先生方、助手の方々、事務局の方々、そして、私たちを励まし、温かく見守ってくださいました各方面の皆様方のお陰だと深く感謝しております。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

本日、この場から、職人としての人生が始まります。「職人は常に百点満点という厳しい世界を生きていかねばならない。心して走り続けてほしい。」と、常日頃から指導されてまいりました。ある程度は覚悟して飛び込んだつもりですが、これほどまでの世界とは思いませんでした。しかしながら、職藝学院の姿勢と指導は学校という枠を超え、職人としての生き方の教授であったということ、私たちは一生忘れることはないでしょう。

諸先生方から頂いた数々の励ましの言葉を胸に、生涯学生証をたずさえ、職藝学院の同行者として、私たちは今旅立ちます。

最後になりましたが、本日まで列席いただきましましたご来賓各位、そして諸先生方、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますと共に、職藝学院がますます発展されますよう祈念して、答辞と致します。

平成十九年三月二十日

職藝学院 建築職藝科

卒業生代表

坂本光太